

## 自分たちで育てたサケの稚魚放流



3月10日(金)の午後から松野尾小学校2年生・5年生が学校裏手の西山川で、自分達で卵から育てたサケの稚魚をコミ協役員に見守られながら放流しました。

このサケの卵は松野尾コミ協が鮭発眼卵河床埋設放流事業に参加しており、そこで頂いてきたものです。この事業は毎年12月に行われており、間瀬地内の宝川の河床にサケの発眼卵を埋め込む作業で埋設放流と呼ばれています。コミ協は毎年この事業に参加して埋設放流をお手伝いしています。

子ども達は教室でその発眼卵を大切に育てて稚魚へと成長させました。「大きくなって戻っておいで!」と声をかけ放流しました。放流後も橋の上からいつまでも見守っていました。

このサケ稚魚放流事業は今回で9回目になりました。西山川で戻ってきたサケも確認されています。



### これからの予定

4月 9日(日)角田山マラソン

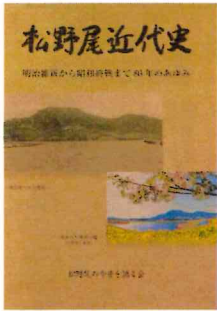
4月 14日(金)健幸チャレンジ カーリンコン

4月 15日(土)松野尾コミ協通常総会

4月 23日(日)矢垂の里 花見フェス  
会場 ほたるの里

## 2/22 歴史講演会

## 〈今昔ふれあい事業〉



会長 山賀誠さん



副会長 酒井英卿さん

今昔ふれあい事業で昨年3月に「松野尾近代史」が発行され、全戸配布されました。松野尾の今昔を語る会のメンバーが多くの時間をかけて編纂を重ね完成させた集大成の一冊です。この発行を記念してコミセンで2月22日(水)に歴史講演会が開催されました。

前半は今昔を語る会 会長 山賀誠さんより「松野尾集落の有史以来の村の成り立ちから江戸時代以降の生活や文化の有り様について」講演頂きました。

後半は今昔を語る会 副会長 酒井英卿さんより「初代松野尾村村長の山賀五平翁の業績について」講演頂きました。

私たちが住んでいる松野尾について知ることは、この土地への愛着心を育んでいく事につながります。地域住民のみなさんにもっともっと松野尾を知ってもらい、この地域を好きになってほしいと思います。

### 松野尾の近代を彩る8人の先覚者

1. 小出 八郎兵衛 (松野尾村里正) ※
2. 河村 又左エ門 (松山新田里正) ※
3. 山田 元吉 (大原新田村里正) ※
4. 中川 立元 (松野尾小学校初代校長)
5. 山賀 五平 (松野尾村初代村長)
6. 山本 紅雪 (俳人 以心奄紅雪)
7. 笹口 岱作 (笹祝酒造 創始者)
8. 酒井 文三郎 (日本の養蚕技師)

※里正(りせい)とは庄屋のこと



## 令和4年度 松野尾地域活動助成金交付

昨年度に「さらなる松野尾地域の活性化をめざして」助成金制度の見直しを行いました。公正性をも鑑み広く地域住民の活動を応援するために助成金交付希望団体を公募し13団体を選考しました。今年度も引き続きこの13団体に、活動報告書を提出いただき助成金を交付いたしました。松野尾地域の世代間交流を含んだ活性化および福祉の向上に、貢献してくれることを期待します。

松野尾地域老人会	30,000円	松野尾楽友福祉会	5,000円
セーフティスタッフ	20,000円	かわちゃん広場	5,000円
福扇会	10,000円	新月の茶の会	5,000円
スイカの名産地	10,000円	はじめてのヨガ	5,000円
松野尾卓球クラブ	10,000円	松野尾クラブ	5,000円
松山神楽保存会	10,000円	ピンポン倶楽部	5,000円
松山子ども会	10,000円	合計金額	130,000円

※新年度では、また改めて助成金交付希望団体を公募し、交付団体を選考したいと思います。

## 2/23 地域福祉活動計画 座談会

令和4年度松野尾地域福祉活動計画実施に向けた座談会が2月23日(天皇誕生日)に行われました。この「地域福祉計画」は住民と福祉活動団体がいっしょに福祉活動を推進し、住みよい地域づくりを目指すものです。祝日にも拘らずコミ協役員の他に西蒲区健康福祉課・西蒲区社協・巻地区社協・包括支援センター・支え合いのしくみづくり推進員など地域福祉の関係者24名での座談会でした。今年度の活動内容の報告と反省をふまえて、計画推進のための具体的方策の検討をしました。



### 基本理念 みんなでつくっていこうよ わがまち松野尾

#### 基本目標① だれも一人ぼっちにしない地域づくり

- ◇高齢者、一人暮らし世帯や困っている世帯への見守り活動を推進します
- ◇茶の間や地域行事に参加して、助けあう信頼関係をつくります
- ◇平時の取り組みを活かし、災害時に一人も取り残さないしくみづくりを進めます

#### 基本目標② 子どもが安心して元気に活動する地域づくり

- ◇家庭、地域、学校の連携により地域ぐるみで活動を展開します
- ◇子ども対象の事業を若い世代に中心になってもらい推進していきます
- ◇コミュニティセンター前の広場を子どもたちのために有効活用していきます

#### 基本目標③ すべての住民がつながる地域づくり

- ◇コミ協事業を通して交流をはかり、地域住民の連携を強化します
- ◇さまざまな世代のつながりから、地域ボランティアの発掘と育成を図ります
- ◇本計画を広報紙等で地域全体に周知します

## 1/29 豆まき会 〈子ども部会〉



昨年はコロナウイルスまん延防止措置のためコミセンは長期に臨時休館となりました。そのため、残念ながら豆まき会も中止になりました。

2年ぶりの豆まき会には新潟大学「いろはの風」のみなさんも参加しました。子ども達だけでなく、保護者や大学生も共に季節の行事を楽しみました。

コミ協会長が扮する「福の神」から参加賞のお菓子をもらって帰りました。



# 第1回

## あつおの絵画展

# ふるさと西蒲原 少年のころ

昨年11月の文化祭で高橋厚郎さんの絵をご覧になりましたか？

最近では全戸配布された、今昔を語る会主催の「歴史講演会」のチラシにも松野尾大運動会の絵が掲載されました。

高橋厚郎さんは松野尾浦組の出身で現在は東京在住です。

高橋厚郎さんが子どもの頃に見たり触れたりした、ふるさと西蒲原の思い出を19枚の絵に描きました。

今回の広報紙から連載で、高橋厚郎さんの絵画を紹介していきたいと思っています。

ご期待ください。



昭和六年月村の農家長男として病弱の生まれ。  
父耕豊の感性を享受し、少年期を過ごす。  
家を壊すも農地改革と切売で田畑は多く、大歳上京。  
夜半と叩き上げを経て、一級建築士事務所を率いる経営者。

### 破

休力作として稽古指の次第、狂気を茶で剣道七段。  
70歳から雅楽龍笛と能楽囃子笛も習得の為、入門師事。  
絵は好き勝手に落書きも書きあがるうちに、珍妙な画風を確立。

### 急

馬鈴薯、生家は空っぽ、望郷つれど志、まだ果てしなく。  
老眼難読、神経痛、物忘れ、と、でも懐物ははより具合で。  
グー



### 小正月

柳などの枝に繭の形に丸めた餅や米粉の団子を多数つけたもの。繭の豊収を祈って小正月に飾ります。後に正月用の縁起物として農家や商家、一般家庭でも飾りました。松野尾集落では旧正月(2月15日)を目途に川辺や上堰瀧から柳の小枝を切り取り、家庭の茶の間の西南の欄間部に取り付ける風習が近年まで残っていました。枝の先に角餅を取り付け、宝船や小判などの縁起物をさげて豊作や家内安全等を祈願しました。

コミュニティ協議会の活動は、新潟市の補助金を受けて実施しています。